

日本電気、日立マクセル、パナソニック

放送用半導体メモリーカード収録システム「P2HD」 機器互換で各社と協業推進

サーバーシステムやメモリーカードなど



パナソニック株式会社(以下、パナソニック)は、日本電気株式会社(以下NEC)、日立マクセル株式会社(以下日立マクセル)との間で、パナソニックの「P2HD」シリーズとの互換機器・システムの開発に関する協業を進めることで合意しました。

【P2HD/AVC-Intra 互換ビデオサーバ】

・NEC:

NECの「Armadia™」ビデオサーバの圧縮フォーマットは、あらゆる MPEG2 に対応。今後、H.264(「AVC-Intra」等)にも対応することによりマルチフォーマットを実現します。

詳細は下記 WEB サイトをご覧ください。

<http://www.nec.co.jp/bv/hoso/armadia.html>

【P2 互換カード】

・日立マクセル:

日立マクセルは、パナソニック株式会社の放送用半導体メモリー収録システム「P2 シリーズ」に対応した半導体メモリーカード「P2 カード」3 種類(64/32/16GB)を 2009 年 3 月より発売します。

日立マクセルは記録メディアのリーディングカンパニーとして、放送局、プロダクションなどの業務用途に応える信頼性の高い放送用テープを開発してきました。今後もプロの現場で培ってきた高い技術力によって、従来の放送用テープに加え、ファイルベースのワークフローにも対応できる記録メディアの製品化に取り組んでいきます。

詳細は下記 WEB サイトをご覧ください。

<http://www.maxell.co.jp/jpn/news/2008/index.html>

今回の新しいパートナー2社の参加により、P2 アライアンス・パートナーは全世界で 31 社となりました。

これらパートナー各社が提供する対応機器の充実により、より多くのユーザーが「P2HD」シリーズを使用できるようになり、「P2HD」シリーズの半導体収録による様々なメリットを実感していただくと当社は考えます。

現在、全世界の放送局は HD 化とテープレス化が急速に進行しつつあり、従来のテープシステムからのリプレース需要が高まりつつあります。そんな中、半導体メモリーシステムとして業界に先駆けてラインナップが充実した「P2」および「P2HD」シリーズは、全世界に向けて既に 100,000 台以上を出荷しました。採用する放送局も増加中で、現在ワールドワイドで 900 局以上に達しています。(2008 年 9 月末時点)

【パナソニックの開発した P2 カード、P2HD シリーズについて】

P2 カードとは、パナソニックが放送・プロダクション業界向けに SD メモリーカード技術を応用して開発した高速アクセス・大容量なプロフェッショナル用半導体メモリーカードです。

P2 カードは SD メモリー同様に耐振動・耐衝撃・耐環境(温度・湿度)など従来の VTR やディスクシステムをはるかに凌ぐ高い信頼性を確保するとともに、高ビットレートな放送用デジタル HD 映像を記録するための大容量と高速転送を実現しています。

このP2 カードを使用したパナソニックの放送用半導体メモリー収録機器システム「P2HD」シリーズは、取材時の高い信頼性はもちろん、カードのリユースによるトータル・メディアコストの削減やメカレスによるメンテナンスコストの大幅な削減が可能。またその高速アクセスによって、従来必要だったデジタイズ作業を不要にすることにより、制作期間の大幅な短縮を実現し、従来のワークフローを劇的に改善することが可能です。

記録されるファイルフォーマット(P2 コンテンツファイル)には MXF (Material eXchanged Format)を採用、そのファイル構造と合わせてパートナー企業に公開しています。ノンリニア編集やサーバーに関しては、パナソニックは以前から“オープン・マインド”思考に立ち、他社製品とのインターフェイスを重視してきました。P2 開発にあたっては各メーカーに積極的に情報提供と呼びかけを行っており、主要メーカーと製品では P2 システムへの対応が実現されつつあります。



写真(左):P2 カード(64GB)AJ-P2C064AG 写真(右):「P2HD」シリーズ